

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	290100064		
法人名	有限会社ながしま		
事業所名	グループホームながしま		
所在地 (電話番号)	〒030-0861 青森県青森市長島4丁目22-19 (電話) 017-763-4100		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 11月 1日	評価確定日	平成 20年 12月 5日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋根造り		
	3階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,200 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.4 歳	最低	53 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森山内科クリニック、仲條歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市内に位置し、周囲に商店や会社等の建物が隣接しており、活気に溢れた環境にある。ペンションを改造し1階が有料老人ホーム、2・3階の2ユニットがグループホームとして機能している。管理者を中心に、利用者本位と自立支援をモットーに日々の介護が提供されており、残存機能を活かしながら主体的に、安らぎを持って生活出来るよう、入居者個々の望む生活の在り方を模索しながら生活を支援している。地域住民の協力体制も甚大で、地区行事への誘いやホーム行事の企画・担当に積極的に関わってくれる等、地域に暮らす一住民として交流が確保されている。今後は、ホームの持つ介護の専門性を地域に還元しながら、地域の認知症介護力を高めていきたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の結果については、職員全員で確認すると共に、運営推進会議でも報告を行い、改善に取り組んでいる。又、同業者間の交流についても、地域包括支援センターが中心となり、圏域の4事業所が持ち回りで勉強会を開いたり情報交換が行われている。食事の支援については、安全確保が優先され、介護提供と同時に職員も一緒に食事を楽しむまでには至っておらず、今後も課題とされる。共有空間の快適性は、装飾や家具等で工夫されており、ダイニングからの眺望も良い。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が個別に評価を行い、その結果をまとめ自己評価としており、職員の意見が反映されている。浮き彫りにされた課題に対して、入居者サイドの観点から逸脱せず、具体的な改善策を検討し、出来る事から実践され、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開催日や出席メンバー及び討議内容等、年間計画の中に盛り込まれおり、定期的開催されている。評価や具体的な改善取り組みの状況報告、又意見の吸い上げが行われ、ホーム・地域行事の参加状況や、入居者の日々の暮らしぶり等も報告されている。メンバーの協力体制も大きく、地域参加を容易にする効果を得られている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>各階に意見箱を設置すると共に、面会時に話し合いの場面を持ち、家族の意見や要望の引き出しに努めている。出された内容についても真摯に受け止め、職員全員で話し合い、具体的な改善策を立て対応、経過報告も行われている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流状況は良好であり、定期的なボランティアの訪問や、施設行事への参加は勿論、その企画・運営に対しても協力が得られている。地域行事への誘いもあり、地域住民として交流が確保されており、日常の外出の場面でも気軽に声を掛け合う関係が構築されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らしていただく為に、利用者本位と自立支援を理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日常的に視認出来るよう事務室に掲示されているが、職員間の確認が不足気味で、把握しきれていない部分がある。		日々のミーティングや定例の会議等の機会を捉え、職員間で繰り返し確認を行い、直接介護の場面では理念に裏打ちされた支援の展開が望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的に地区内に外出したり、隣人付き合いは出来ている。地域は高齢世帯が多く、自ずとホームに対する関心度も高く、催し物への誘いやホーム行事の企画・担当に協力を得られたり等、交流は活発である。関わりながら認知症介護の場面に触れていただき、実体験を通し地域の認知症介護力が向上するという相乗効果がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員1人ひとりが評価表の記入を行い、気付きの視点を高める取り組みが行われている。又、外部評価についても、課題解決に向け全員で検討し、具体的な策を打ち出している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は隔月で実施、年間計画の中で討議内容等も細かく決められており、報告事項の他に出された意見や要望等は現場に反映されている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加以外にも、分からないことや疑問点など聞き、また事故や変化があった時の報告は書面で逐一行い、対処の指示を仰いでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在2名の方が地域権利擁護事業を利用しており、職員も理解し関わっている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は、虐待や拘束に関して{あるべきではない}と強い信念を持って運営に当たっており、身体的な部分に留まらず、指示・命令の言葉も広義の虐待と捉え、職員に周知徹底している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は事前面接に出向き、生活に対する希望や不安等を確認し、職員間で話し合い対処している。入居の契約時には重要事項説明書や契約書の文書を持って充分説明を行い、納得・同意の署名・捺印をいただき入居につなげている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に現況報告を必ず行い、且つ、月1回は預かり金の出納状況も含め、郵送で家族に報告している。又、預かり金の入金時には家族のサインをいただいております、出し入れが明確になっている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設置し、家族の意見の吸い上げに努めている。又、重要事項説明書の中で、苦情受け付け者や処理体制を明確にしており、契約時に説明、出された内容については、職員間で検討し改善している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設初年度は離職者が居たものの、現在は定着している。ホーム内の異動は無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外で定期的に研修会を開催し、質の向上に努めている。又、全職員が順次外部研修に参加出来るように調整しており、文書による復命の他、職員会議の中で、口頭報告、情報の共有を図っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが中心となり、圏域の4事業所が持ち回りで研修計画を立て、交流しながら学習会や情報交換を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族と事前面談を行い、職員と顔馴染みになれるよう配慮、又、生活の様子を伝え不安を解消した上で入居に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	残存機能の活用や本人の希望等を取り入れ、新聞やお絞りたたみ等個々に合わせた役割を持ってもらい、職員と一緒に作業している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の意向を確認する為に、毎日その日の過ごし方の希望を取ったり、家族が望む生活の在り方を聞き取り、日々の生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や機会を捉えて家族の希望を確認したり毎日の暮らしの中で本人の望む生活を把握し、全職員で意見を出し合い介護計画が立てられている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の定期と、変化のある時は随時見直しが行われているものの、その根拠となるアセスメントが行われていない。		計画作成に於いては、その時点での現状に即した状態をベースにする事が、個別の援助体制をより膨らませ、効果的と考えられます。定期的にアセスメントを行い、最新の情報を計画に反映することが望まれます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時、送迎費用を徴収していたものの、市の指導や生活施設としての役割を再確認し、11月より廃止した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関り継続を支援、本人及び家族が希望する医療機関の受診を援助している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム側としては家族及び本人の意思を尊重したいと考えているが、全てに対応出来る状況には無く、課題も多い。医療の役割や家族の協力等、検討項目は残されているものの、対応については前向きに考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は全て事務室で管理されており、個人の情報が安易に目に触れる事は無い。入居者への声掛けについても、管理者の日々の指導で指示・命令的な口調は全く聞かれず、穏やかに対応している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中に大まかな日課はあるものの、個人に無理強いする事は無く、個々のその時の体調や気分配慮し、希望を確認しながら生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>1階の有料老人ホ - ムの調理員が食事を作っており、盛り付けや配膳は各階で職員と入居者が一緒に行っている。食事中は事故のリスクが高く、職員も介護経験が少ない事から、共に食事をしながら介護を提供する事に不安が大きい為、入居者の食事状況の見守りを行っている。</p>		<p>全職員と一緒に食事を摂る状況に無くとも、入居者がどのような物を食しているのか、固さや味付けはどうか等、職員は把握しておく必要があると思われます。食の安全を確保しつつ、早い段階で一緒に食事を摂れる状況になる事を期待します。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>各階で曜日をずらして週2回の入浴日の設定はしているものの、便宜的なもので希望があれば各階の協力でいつでも対応出来る状況にある。夜間の入浴についても、現在は希望者が居ないが、今後聞かれた場合は対応の方向で考えている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事に関連した作業を担当したり、趣味の読書が高じて居室内がミニ図書館のように飾られたりと、思い思いの生活を尊重しながら張りのある生活を支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>週1回の外出支援は確実に行われており、その他に希望があれば散歩や買い物に出かけたり等、日常的に外出出来る状況にある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者の確固たる方針で「身体拘束は絶対にしない」という指導が徹底されており、職員の意識も統一され、拘束の場面は全く無い。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の観点から施錠しているものの、日中の施錠は無く、出入りの確認を行いながら、開放している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回避難と消火訓練実施、又、年1回は消防署の点検と業者依頼で安全点検を行っている。今後は町内の避難場所の想定と避難誘導の協力者確保を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成、食事や水分の個別摂取量については毎回記録に残されており、変化の早期発見に繋がっている。又、個別の嗜好や咀嚼能力に合わせた形態食を提供し、摂取量の確保に配慮している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	現在疥癬感染者が2名おり、通院と軟膏処置及び毎日入浴、六-Oハップによる掛け湯等で治療に努めている。感染症のマニュアルがあり、職員は自由に閲覧し活用できる状態にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>元来パシジョンとしての建築されたことから、廊下が狭い感否めないものの、他の空間において家具や置物等で快適な空間を醸し出す工夫が随所に伺える。又各階からの眺望も良好で、晴れた日にそそく陽光は心を落ち着かせてくれる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、個人の趣味や嗜好が反映され、思い思いの空間が作られており、無機質な感はない。</p>		

 は、重点項目。